

【十一月の言葉（平成二十八年）】

流柿の はだかにされて 吊つるされて

光おに遇おうて 変わる味わい

私は流柿、しぶとさは芯の芯まで流ばかり。

尊い他力（仏の願い・お慈悲）にまかす時、自力の皮をはぎとられ、はだかにされて吊るされて、太陽の恵みの光の中に二十日間、不思議に変わる甘い味。すべて他力のお働き。

お慈悲の中に生かされての人生。

光おに遇おうた幸せは、不思議の中の不思議なり。

お慈悲うれしやナムアマミダブツ。

わが胸つに 鬼と仏が 同居して

角つを出したり 手を合わせたり